



社会福祉法人 愛徳福祉会

# 大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

# 葦

大阪発達総合療育センター機関紙  
第34号 2019年夏

## INDEX

・特集に寄せて……………1P	・ママ達の出会いと交流の場「ママカフェ」……3P
・特集に寄せて……………1P	・リレーエッセイ ……3P
・保育所等訪問支援事業 セラピストも出動開始! ……2P	・イベントトピックス ……4P
・当センターでの職業体験について ……2P	・職員研修実績状況 ……4P
	・寄付金と寄附物品 ……4P

## ■特集に寄せて



大阪発達総合療育センター 副センター長

船戸 正久

夏が過ぎやっとな秋らしい涼しさを少し感じられる今日この頃になりました。千葉県の方では、台風15号の影響で今なお家屋の被害や停電の復旧が遅れ、住民の方々が大変な生活を強いられていることを思い、心からお見舞い申し上げます。

今回は、当センターの児童発達支援活動について一部紹介します。一つは、リハビリ・セラピストによる「保育所等訪問事業」への出動の記事であり、もう一つは児童発達支援センター「ふたば」と「なでしこキッズ」職員による「ママカフェ」の記事です。セラピストが、地域の保育所を訪ねた出動体験が生々しく書かれています。「ママカフェ」では、同じ悩みを共有できる仲間や先輩ママとの出会いなど、わいわいがやがやと話し合っている様子が想像できます。リレーエッセイでは、当センターが今力を入れている「ボッチャの魅力」についても書かれています。是非眼をお通し下さい。

## ■特集に寄せて



大阪発達総合療育センター センター長

鈴木 恒彦

今年の夏の猛暑も一段落し、熱中症の心配からやっと解放される季節となりました。本特集では今回、センターの地域医療福祉事業のうち、「出向くサービス」と「迎えるサービス」の実際が報告されています。前者の保育所等訪問支援事業と、後者の「ママカフェ」の開催の詳細が担当責任者の方々から報告されています。どちらも関係する職員の熱意が伝わってきて、今後の関係する学校や保育施設の職員の方やご家族との地域連携の発展が期待されます。リレーエッセイでは、従来の自己紹介スタイルと異なった井上氏によるボッチャの魅力について紹介されています。来年のパラリンピック開催、センター内でのボッチャ人気の高まり等、タイミングの良い記事だと思います。当センターでの職業体験として二名の中学生（市立我孫子中学）が参加されたことを通して、中学生の頃からでも、この分野の仕事の実践的な部分に少しでも興味がわく一助になればと願うのみです。



## 保育所等訪問支援事業 セラピストも出動開始!

リハビリテーション部

井上 千絵  
黒澤 淳二

保育所等訪問支援事業は2012年の児童福祉法改正により創設された障がい児通所支援の一形態です。近年、障がいのある子どもたちが早期から地域へと移行するようになりました。学校でもインクルーシブ教育が推進されるようになり、保育所や学校現場での支援のニーズはとて高くなってきています。これらの要請に応えるために、4月からセラピストによる訪問支援を開始しました。これまでは保育士が、児童発達支援センターふたば利用中もしくは卒退園された小学1年生までのお子さんを対象に実施してきた事業で、もちろん現在も継続しています。

セラピストの訪問対象は、当センターを利用して保育所・小学校などに通われているお子さんで、移動距離等の事情から訪問地域は当センターから約3km以内の保育所・小学校としています。いずれも児童発達支援センターふたば利用中もしくは卒退園されたお子さんは、応相談としています。

実際に学校や保育所に赴いて驚いたことは、日々の先生方の関わりや支援の工夫は素晴らしく、生活のなかでたくさんのお子さんの笑顔に出会えたことです。これまでリハ室で見てきた子どもたちの姿は一部にすぎず、地域のなかで、子ども集団のなかで、子どもたちはとてたくましく成長されていました。子どもたちにとって、子ども集団はかけがえのない環境であると改めて感じています。

一方、先生方は日々悩んでおられることも多い…ということも知ることができました。抱っこしかた、声のかけ方、園庭での遊びかた、食事の支援方法…などです。先生方は、毎日のやりとりや試行錯誤のなかで上手に取り組みされていたとしても「これでいいのでしょうか？」と常に不安に思われるようです。その



ようなときは「大丈夫ですよ!」とお伝えするだけでも、お役に立てているようです。

支援のはじまりの多くは「〇〇ができなくて困っている」「〇〇の介助がうまくいかない」など、困りごとや問題点の解決などからはじまります。しかし、訪問支援を重ねることで、「〇〇をもっと楽しむためにどうすれば良いか」「〇〇にもっと主体的に参加するにはどうすれば良いか」「子どものやりたい気持ちをどうサポートするか」というように、次第に目標指向型の取り組みへと発展するので、私たちもとても楽しく取り組ませていただいています。

子どもたちは一人一人全く違います。日や時間によっても違います。「いま」「ここで」毎日の子どもたちの生活を支えておられる保育士さんや先生方からも教えていただきながら、子どもたちがいきいきと子ども集団のなかで育っていけるように一緒に考えていきたいと思っています。

## 当センターでの職業体験について(我孫子中学校より学生2名参加)

2019年6月18日～19日の2日間、我孫子中学校の生徒さん2名が、当センターに、職業体験に来られました。当センターにおいて、リハビリテーション部にてセラピーの見学、療育部ふたばでの保育の見学、運営局職員とのポッチャ体験、ボランティア委員会主催のドッグセラピーへの参加など、様々な体験をして頂きました。後日我孫子中学校より、当センターに感謝状を頂きました。





# ママ達の出会いと交流の場『ママカフェ』

児童発達支援センター ふたば 保育士  
水野 里佳

交流や情報共有等を目的に昨年度よりふたば・なでしこキッズ在籍児の家族を対象に様々なテーマでの学びの場として「ママカフェ」を開催してきました。毎回、多数の参加者があり、在籍児の家族支援としては有意義であると考えていました。しかし、家族の声から育児情報の交換、仲間や先輩ママとの出会い、専門家への相談が身近な場でできることが必要であるという課題も感じていました。そこで、障がいのある子どもを育てる家族には家庭生活や地域生活に関わる悩み・不安が日常的にあり、家族への支援は継続的に必要であると考え、在籍児の家族に限定せず、地域で暮らす障害児・発達が気になる子どもを育てる家族も対象に広げ、気軽に集えるカフェを今年度5月から月に一回、運営することにまりました。

カフェのプログラムの前半は講師によるテーマについてのお話、おやつとコーヒーのモグモグタイム、後半はお茶を飲みながらテーマの話の感想や気になる話題の共有、最後に質疑応答とまとめをしてカフェは閉店となります。今までのテーマは「頭の体操～情報処理の仕方」や「感覚の違いあれこれ」など座学だけでなく、ゲームを取り入れたり、グループ対抗のクイズをしたり、体験型のスタイルも好評です。毎回、あっという間に2時間は過ぎ、ママ達の話はまだまだ尽きないようです。このように、ママカフェを通して家族が何よりも色々な人とのつながり、まなび、気づき、一人で悩まずに共感できる場を持つことができるということ大切に、今後も多くの方々に参加してもらえるようにパワーアップしていきたいと思ひます。



## リレーエッセイ

リハビリテーション部 理学療法士 副主任

井上 伸

前回の菅さんよりご指名にあずかりました。リレーエッセイ6人目のPT井上伸です。

今回は、ボッチャの魅力について皆さんにお伝えしたいと思ひます。

### ボッチャの魅力 その① 誰でも楽しめる！

ボッチャのルールは簡単で、白のボールに赤または青のボールを近づけていき、最終的に近い方に点が入るというものです。ランプという勾配具を使えば、ほんの微細な動きでもボールを投げることができます。

### ボッチャの魅力 その②

うまくいったときの感動がすごい！

子どもたちとボッチャをやっているときに、仲間が投げている様子を見て投げ方を工夫し、自分の能力を最大限に発揮しようとする姿は、可能性や潜在性を感じさせ

られる場面でもあり、喜びと一緒に共有することができます。

### ボッチャの魅力 その③

多彩な戦術・ミリ単位の誤差が勝負を決める！！

ボッチャでは、多彩な戦術があり、一つの投球に対して2手3手先を考えながらボールを置いていきます。ミリ単位の誤差やミスが勝敗を分けることとなります。特にチーム戦やペア戦などは、いろんな角度から狙えるため戦術の幅が広がります。

まだまだお伝えしたいことは山ほどあるので、みなさん是非一度ボッチャをやってみませんか？

それでは、次回のリレーエッセイはスポーツ繋がりということで義肢装具科の上野剛士さんです。



# イベントピックアップ

## お祭りとお花火大会の開催



毎年恒例の各事業所での夏祭りとおフェニックス花火大会が開催されました。今年も、利用者様と家族様、職員が一体となり行事を運営し、大いに盛り上がりました！

### 職員研修実施状況 平成31年4月～令和元年6月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成31年 4月1日(月)～3日(水) 9:00～17:30	教育研修部	平成31年度新入職員研修 (兼平成30年度中途採用者研修)	梶浦一郎理事長 他	34名	5階ホール
令和元年5月22日(水) 17:40～18:40	教育研修部	医療安全研修会 「発達障害から学ぶセーフティマネジメント」	飯島禎貴 医務部小児科医長	129名	5階ホール
令和元年5月29日(水) 17:40～18:40	教育研修部	人権研修 地域自立支援研究プロジェクト学習会 「浪速の5人の若者は一僕らの印刷会社」	岸田美智子氏	79名	5階ホール
令和元年6月26日(水) 17:40～18:40	教育研修部	人権研修 地域自立支援研究プロジェクト交流会	岸田美智子氏	29名	1階理学療法室



大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

(H31.04～R1.6.30)

(H31.04～R1.6.30)

月	寄付者(敬称略)	
4月分	4月分楽基金 5件	本園
5月分	5月分楽基金 3件	
	6月分楽基金 7件	
6月分	国際ソロプチミスト大阪ー中央 匿名	

一般寄付金

寄付物品

月	寄付者(敬称略)	物品名
4月	大塚大輔	ネルコアオキシセンサー 3個
5月	出野彩佳	おもちゃ
	奥西昌樹	プロンボード
6月	匿名	おもちゃ・電池



### 大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会  
発行責任者・梶浦一郎

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)  
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)  
主として重症心身障がい児者  
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児  
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児  
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)  
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21  
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)  
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856  
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)  
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856  
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)  
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児  
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児  
〒552-0004 港区夕凧2-5-3  
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524